

---

spring

藤咲茉宇

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

spring

### 【Nコード】

N4081I

### 【作者名】

藤咲茉宇

### 【あらすじ】

コウノトリから落ちてきた少女と、引きこもり青年のお話。異世界ファンタジーな世界が舞台で、雰囲気はのんびりほのぼの、ときどき切なめシリアス。サラッと読める10000字程度の掌編を連作形式で書き綴ってゆきます。

## 晴れときどき幼女

昨日まで続いた曇うつな灰色の雨空は、雲ひとつない果てなき青へとその色を変えていた。

「まぶしい……」

陽が天も半ばへと差し掛かった頃、トーヤはカーテンの隙間から射す陽光に眉を顰めながらゆつりと身体を起こした。その周囲には紙と絵筆が乱雑に散らばり、書物は開かれたまま放られ、ブランケットは床へと落ちてている。

茫と瞬きもせず、そのままの体勢で左手を彷徨わせる。カツと当たったそれを手に取り耳に掛けた。レンズ越し、世界がクリアに広がる。瞬きを一つ、二つ。伸びを一つ。そうしてようやくトーヤは立ち上がった。

部屋の南側、庭へと続くテラス窓を開く。春の香りを乗せた風がふうわりと頬を撫ぜた。

皮靴を履き芝生を進む。鬱蒼と生い茂る森に囲まれ、この屋敷だけが切り取られたように存在していた。柵はない。どこまでが自身の土地であるのかも知らない。知る必要もなかった。トーヤの生涯は屋敷の中で始まり、そうして終わるのだから。

茫と立ち止まり、瞼を閉じた。雨上がりの澄んだ空気を身体全体で感じるように大きく息を吸って、吐く。淀みきった心の中までも肺の中の酸素のように入れ替えることが出来れば良いのに。そんな詮無いことを、思った。どうかしている。ゆるく首を振って、陽を浴びたせいなのだため息を一つ。そうしてふと、空を仰いだ。

雲ひとつない青い青い空を、白い影が力強く羽ばたいてゆく。羽音が耳に心地良く響いた。生き物の音だ。思えば、人と触れ合わな

くなつてどれだけの月日が経つたろうか。表情は忘れた。いつしか声も失つてゆくのだらう。どちらでも良かった。色を見る目と筆を握る腕さえあれば。

トーヤは空を仰いだまま思考の沼に身を沈めていたが、高く風を切る音に目を瞬いた。醒めた視界の中黒い影が 落ちてくる。

考える間などなかった。思わず両手を伸ばし抱き止める。勢いを殺せずそのまま背中から倒れ込んだものの、辛うじて頭を強打することは避けられたようだった。

ケホ、と軽く咳き込むと、抱き止めた小さな『何か』が鋭く顔を上げた。

真つ先に飛び込んできたのは 空の青。雨上がりの果てなく澄み渡った空のような、高く深い双眸がトーヤを射抜いた。それはまあるく見開かれ、くるりくるりと瞬いた。

「まあ。あなただあれ？」

今日の天気は晴れ。  
のち、幼女。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4081i/>

---

spring

2010年10月28日08時17分発行